

白杵市 施策評価シート

(令和5年度)

評価 担当課	課名 子ども子育て課
-----------	---------------

コード	I-2-3	施策名	安心して産み育てるための支援
まちづくりの 目標	生活の土台を築き、笑顔あふれる市民が暮らすまち(健康福祉)		施策の方針 子育てしやすい環境を整える
5年後の めざす姿	妊娠から出産、子育てまで、その時々に必要な支援を受け、健康で安心して過ごせるような支援体制を整えます。また、子育てを地域全体で支え合う仕組みづくりをめざします。		
施策の課題	若い女性の市外転出や晩婚化、子育てに係る経済的負担が課題で、出生数減少に歯止めがかからない状況ですが、安心して出産を迎え、子どもの健やかな成長を願い、様々な支援体制を整えていきます。こうした中、不妊治療費助成の拡充や妊産婦医療費助成の継続に加え、令和5年度には産前産後の伴走型相談支援と経済的支援を一体化した「うすきっこ出産・子育て応援事業」を実施しています。また、育児の不安や負担の軽減や産後の支援充実のため産婦健診事業や産後ケア事業を行ない、継続して、妊娠期からの切れ目のない支援を充実していきます。		

<施策の進捗を測るものさし(指標) ~ 第2次白杵市総合計画 後期基本計画>

新規 指標	指標名	指標の説明	指標数値の推移							
			単位	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
	この地域で子育てをしたいと思う親の割合	乳幼児健診時の「健やか親子21アンケート」において、この地域で子育てをしたいと思う親の人数÷健診受診者(親)数	目標	%	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0
			実績	%	96.7	97.3	96.8	97.3	98.3	
			達成率	%		100.3%	99.8%	100.3%	101.3%	
	母子手帳交付時の保健指導率	保健指導実施者数/母子手帳交付者数	目標	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			実績	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
			達成率	%		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	3歳6か月児健診受診率	3歳6か月児健診の受診者(児)数÷対象者数	目標	%	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	
			実績	%	96.3	98.4	98.4	100.0	98.9	
			達成率	%		101.4%	101.4%	103.1%	102.0%	
	0~5歳児の数	住民基本台帳による各年度末の3月31日現在の0~5歳児の数(対前年10人増を指標とする)	目標	人	1,330	1,340	1,350	1,360	1,370	
			実績	人	1,321	1,256	1,165	1,035	1,012	
			達成率	%		94.4%	86.9%	76.7%	74.4%	
	児童の朝食欠食率	全国学力・学習状況調査における小6の朝食をあまり食べていない+全く食べていない割合	目標	%	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	
			実績	%	7.6	調査無	7.0	3.9	6.3	
			達成率	%		-	71.4%	128.2%	79.4%	
			目標							
			実績							
			達成率	%						
			目標							
			実績							
			達成率	%						
指標の 進捗状況	概ね順調	指標の分析	ちあばーとを中心に妊娠期から切れ目のない子育て支援が充実しており、本市で子育てをしたいと思う親の割合は高く、また母子手帳交付時の保健指導は安心安全な出産に向け必ず実施しています。乳幼児の集団健診率は、積極的な受診勧奨を行い目標を達成しています。また、乳幼児の人数は子育て世帯の移住定住等による増加を期待しています。							
		指標達成に向け今後の流れ	達成できている指標は、継続して取り組みます。また、5歳までの子どもの人数については、総合的な少子化対策が必要であり、自然増に加えて、移住定住などによる社会増につながるような全庁的な取組みが必要であります。							

<市民意識調査結果 R6実施結果>

領域名	必要度	満足度	浸透度
向上領域	2.70	2.17	80.07%
過去の調査結果(領域)	令和3年度 向上領域	令和4年度 向上領域	令和5年度 向上領域

向上領域: 今後も現状のサービス水準の維持向上が望まれる領域
 強化領域: 満足度を高めるよう事業の強化が望まれる領域
 見直し領域: サービス水準が適正となっているか、見直しが必要な領域
 検討領域: 施策や事業のあり方や内容の検討が必要な領域

<施策を構成する主な事務事業一覧表>

事務事業名	事業内容	担当課	事業費(単位:千円) ※人件費含まない		評価シート作成の有無	課長評価			重点事項
			R4年度実績	R5年度実績		進捗状況	今後の方針	施策への貢献度	
1	利用者支援事業	子育て支援コーディネーターを配置し、妊娠期からの切れ目のない支援をコーディネート	649	782	無	—	—	—	
2	子ども医療費助成事業	子どもの医療費を助成することにより、疾病の早期発見と治療を促進	98,049	128,646	有	順調	向上	大	○
3	乳幼児等健康診査	4か月・10か月・1歳6か月・3歳6か月健診等乳幼児の健診実施や、妊産婦健診の費用助成	18,137	21,012	無	—	—	—	
4	乳幼児等訪問事業 (こんには赤ちゃん事業)	生後4ヶ月を迎えるまでの児の保健師・看護師・栄養士等の全戸家庭訪問を実施	191	120	無	—	—	—	
5	予防接種事業	予防接種法による定期予防接種及び任意予防接種の費用助成	78,337	79,587	有	おおむね順調	強化	中	
6	妊産婦医療費助成事業	妊産婦の保険適用による医療費の自己負担額の助成	4,829	3,428	有	順調	強化	大	○
7									
8									
9									
10									
合計			200,192	233,575	※事務事業評価シートは対象となる要件を満たした事業のみ作成しています。				

<次年度以降の課題>

少子高齢化、出生数の減少に歯止めがかからない状況の中、「妊娠期からずっと見てもらえる安心感・幸福感」をキーワードに、妊娠・出産前後の支援の充実拡充が必要であると考えており、そのための事業の確実な実施と周知が必要となります。
 こうしたことから、R6年度は、不妊治療費助成を上限20万円に拡充、産後ケア事業の訪問型の導入と利用者負担の軽減、妊産婦医療費助成の対象期間延長、プレコンセプションケアの周知、子ども医療費助成の対象を高校生世代まで拡充するなど、積極的な支援を行います。

施策の評価（今後の施策の方向性）

- 評価の選択肢 ○ 向上 … 現状の通り維持向上する ○ 強化… 現状より強化を図る
 ○ 見直し … 現状を見直し適正化を図る ○ 検討… 現状の抜本的な検討を行う

<担当課評価>…評価者 担当所屬長

担当課評価	評価の理由と次年度以降の取組
強化	安心して産み育てられる支援について、様々な市民のニーズに対応するため、子育て支援だけでなく、住宅・雇用・結婚・出産支援など総合的・横断的な取組みが必要であるので、限られた財源の中で、効果的な施策の展開を図るとともに、施策の周知など積極的な情報発信に取り組む必要があります。また、単年度で終わることのないような、継続的に連続性のある支援を実施していく必要もあります。妊産婦医療費から子ども医療費(18歳まで)まで自己負担分を無償化し、更に「うすきっこ出産・子育て応援事業」により、安心して子どもを産み育てられる環境が整います。